

福島町議会に最高賞

マニフェスト大賞

開かれた議会づくりの評価

【福島、東京】地方議会や議員らの政策などを審査、表彰する「第2回マニフェスト大賞(ローカル・マニフェスト推進)地方議員連盟など主催、早稲田大学マニフェスト研究所共催)が9日決まり、福島町議会(溝部幸基議長)が議会として最高評価となる「最優秀成果・議会賞」に選ばれた。道内からは各部門を通じて唯一の受賞。議会、議員の自己評価制度など「開かれた議会づくり」活動が評価された。同日、東京都内で開かれた授賞式に臨んだ溝部議長は「地域住民のために出来ることを、出来ることから着実に進めようと心掛けてきた。良い評価はともありがたい」と話した。(田中陽介)

連続ノミネート 町民主体が基本

同町議会は「議会賞」と「ベスト・ホームページ賞」の2部門に2年連続でノミネートされ、昨年は最終的に選考から外れ、「審

査員特別賞」にとどまった。ことしは各部門に38団体から547件の応募があった。同町議会は1999年から「町民主体の議会」を基本に、全国各地の先進的議会を参考に議会改革に取り組んできた。2005年には議会と議員の自己評価制度を導入。議員は自身の活動状況を分析、議会だよりなどで評価結果を

明らかにしている。さらに、本会議以外の各種委員会の公開、一般質問の資料を事前にHPに掲載するなど、議会運営を広く公表してきた。溝部議長は「町民が誰でも参加できることが議会活動では重要。そのためには議会の敷居を下げる必要があった」と振り返る。

は継続して、さらに付加価値をつけていこうと努力している。まだまだ可能性はある」としている。昨年の第1回マニフェスト大賞では、空知管内の栗山町議会が「栗山町議会基本条例の制定」で、同議会賞を受賞している。

マニフェスト大賞 全国の地方自治体の首長や議員を対象に、地域住民の利益になる政策を提言し、実行した個人や議会、会派などを表彰する。いままで注目を集めることの少なかった地方自治体や議会から活動実績を募り、審査して表彰することで、一層の政策提言意欲の高揚を図るのが狙い。ことしは国内にマニフェストを定着させたことで知られる元三重県知事、北川正恭氏(早稲田大学大学院教授)を委員長に、総務大臣の増田寛也氏(前岩手県知事)ら11人が審査に当たった。



授賞式で記念品を受け取る滝川明子議員(中央)ら。右端が溝部議長